全国大会出場者へ激励費授与

第73回全日本高等学校選手権競漕大会

開催期間　8月2日㈯～5日㈫
開催地　広島県
出場者　周防大島高校
・男子舵手つきクォドルプル
佐々木琉唯さん（2年）、村上昊さん（2年）、濵村希さん（2年）、保田大樹地さん（3年）、井宮将博さん（2年）
・ダブルスカル
髙橋昌義さん（3年）、小受大我さん（2年）

令和7年度全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会

開催期間　8月6日㈬～8日㈮
開催地　山口県岩国市
出場者
周防大島高校　廣瀬琴子さん（2年）

JVA第28回全国ヤングクラブバレーボール大会

開催期間　9月20日㈯～21日㈰
開催地　和歌山県
出場者
周防大島中学校　新定羽唯さん（3年）

▲全国大会に出場した廣瀬琴子さん㊨、ボート部を代表して出席した髙橋昌義さん㊥と保田大樹地さん㊧（授与式：7月25日）

▲全国大会に出場する新定羽唯さん（授与式：8月21日）

周防大島の文化財67

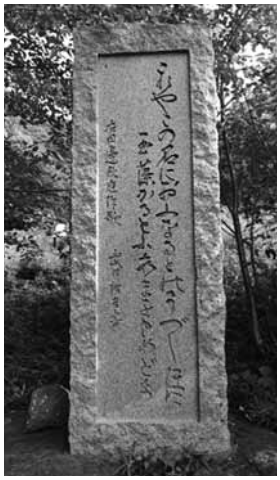
大多麻根神社の万葉歌碑

周防大島町文化財保護審議会委員　豊島　正行

大島大橋を大畠側から大島に向かっていると、車窓から飯の山中腹に神社が見えてくる。この神社は大多麻根神社といい創建年月日は不詳であるものの、古事記に「次に大島を生みたまいき其の名は大多満流別と謂う」とあることから相当古い神社と思われる。社殿はもともと飯の山山頂にあったという。

国道からその神社の鳥居をくぐり参道に入ると、右手に石碑が立っている。その石碑には「これやこの名に負ふ鳴門の渦潮に玉藻刈るとふ海人娘子ども」という歌が刻まれている。この歌は7世紀後半から8世紀後半にかけて編纂された、現存するわが国最古の歌集・万葉集に収められた一首である。作者は天平8年（736年）に新羅（朝鮮半島にあった国）に遣わされた遣新羅使の一人、田邉秋庭である。

私のおすすめは、大潮の潮が動いている時間に、大多麻根神社の一の鳥居がある海岸沿いの遊歩道からみる夕刻の東瀬戸の風景だ。真っ赤に燃える太陽が東瀬戸を染め、大島大橋の橋げたにぶつかる潮流に万葉の時代にタイムスリップしたような気になる。目に入る風景と潮流の音、潮のにおいなど感じたまま、一首詠んでみてはいかがだろうか。



▶瀬戸公園にある歌碑
◀大多麻根神社から望む大島瀬戸

※大多麻根神社の表記ですが、「大多満根神社」とする場合もありますが、ここでは『大島町誌』の記載（980頁、1192頁等）に従って「大多麻根神社」に統一しております。